



「水門帰帆」は、太平洋と那珂川河口を望む和田の上(和田町2丁目)の台地上に位置し、ひたちなか市役所那珂湊支所の南側に所在しています。

水戸藩第9代藩主徳川斉昭公なりあきが、天保4(1833)年に水戸藩内の8箇所の景勝地を選定した「水戸八景」のひとつです。船運で栄えた那珂湊の帆掛け舟が出入りする那珂川河口の風景を「水門帰帆」として選定しました。

翌天保5年頃に、河口の台地突端部付近に、斉昭公自られいしよたいが隷書体で書いた漢字4文字が刻まれた碑が建てられました。碑は現在でも残っており、高さ2.15m、横幅1.3mで、常陸太田市と日立市にある真弓山で産出される寒水石かんすい(大理石)が用いられ、石工是那珂湊の大内石了と伝えられています。4文字のうち1文字が古典文字を使っているといわれています。

碑のある高台からは、東に太平洋、南に鹿島灘、西に筑波山、遠くに日光の連山を見渡せる風光明媚な場所でした。なお、那珂川は、明治時代に太平洋に真直ぐにつながるように改修されました。当時の那珂川は、大きく蛇行してこの碑のある台地の下、現在の海洋高校の辺りを流れており、白い帆の出船・入船を間近に見ることができました。

碑は、もとは現在地よりも若干崖側に所在しており、明治期と大正期に改修され現在に至っています。2基の副碑があり、明治24年の改修記念碑と昭和13年建碑の藤田東湖の七言絶句の碑です。昭和46年に市指定名勝に指定されています。

雲のさかいしれぬ沖に真帆上げて
みなとの方によするつり舟 烈公